

だから、きれい。 長野のカーネーション



綺麗なつぼみがほころぶのを見ると
嬉しくなるんだ。

作り手の情熱とこだわりが
「きれい」の鍵！



だから、きれい。

長野のカーネーション

作り手の情熱とこだわりが「きれい」の鍵

色鮮やかに重なり合う花びらが美しいカーネーション。
長野県は米や野菜、果実だけでなく、花の生産も盛んで、
カーネーションの生産量は、全国一位を誇っています。



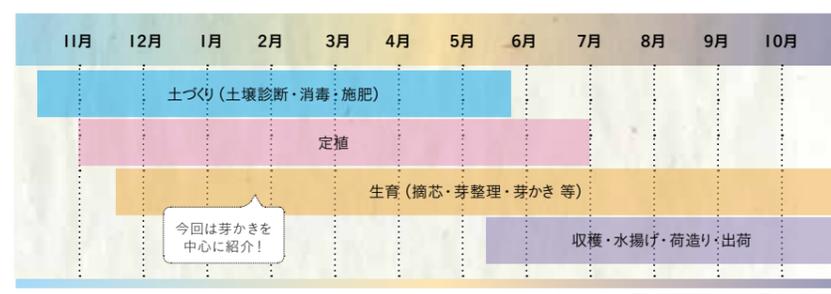
たくさん出てくる脇芽の中でも最後の最後に摘むのが、花の蕾のそばに出てくる芽。これを放置したり乱暴に取って茎を傷つけたりすると、まっすぐに咲かずの蕾が曲がってしまい、品質が落ちてしまいます。



苗を植えてから出荷するまで、さまざまな工程のあるカーネーション。中でも特に重要なのが、「芽かき」という作業です。「特に花の咲く前の芽かきは非常に気を使います」と語るのは、父親の代からカーネーションを作り続ける植松さん。

カーネーションにはたくさんの種類がありますが、大輪のものは一本の茎に一つの花がつくように育てます。仕立てる枝数を決めたら、生長とともに出てくる脇芽を一つひとつ手で摘んでいくのが「芽かき」。出荷するまでに少なくとも3回は「芽かき」をするそうです。「咲かせると決めた蕾の脇に出てくる芽は、丁寧に取らないとせっかくの花が曲がったり、傷ついたりしてしまうんです」と植松さん。優しい手つきで花に触れる植松さんに、花への愛情を感じます。

だからきれい！ 長野のカーネーションの栽培工程



全農長野ホームページ
長野の花
<https://www.nn.zennoh.or.jp/>



スペシャルムービー

長野県産カーネーションのきれいのヒミツはこちら
<http://www.naganojoho.com/jamovie1907.php>

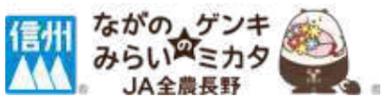


JA信州諏訪管内
カーネーション生産者 植松 敏也さん

カーネーションは強い花なので、きちんと手をかければ、夏でも1週間から10日くらいは楽しむことができます。カーネーションという「母の日」の印象が強いですが、今はさまざまな色や形のカーネーションがたくさん生産されていますので、もっと日常の中の彩りとしてカーネーションを楽しんでもらいたいなと思っています。



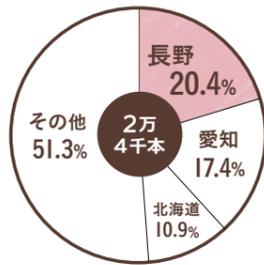
信州 長野県の美味しい農産物は「三ツ山マーク」をつけて出荷しています。JA全農長野は、信頼される産地を目指し、安全・安心な農産物の供給に努めています。



だから、きれい。 長野のカーネーション

長野県はカーネーションの生産量、日本一。さまざまな品種のカーネーションが、全国に向けて出荷されます。では、長野のカーネーションはどのように栽培されているのでしょうか。

日本のカーネーション生産量



【出典】平成29年産 花き生産出荷統計

ぼくと一緒に見ていこう！



1 土づくり

その年の収穫がすべて終わった11月頃から、次の年のための土作りが始まります。収穫済みのカーネーションを抜いた各ハウスの土を土壌診断に出し、その結果を確認しながら、それぞれの畑に足りない栄養や、ワラなどを混ぜ込んでいきます。

こんなにフカフカに耕すんだね。



2 苗を植える (定植)

フラワーネットと呼ばれる枠で区切り、それを目安に棒で土に穴を開けて苗を植えていきます。植えた後は水を与えて根づかせ、その後、一度水を切ります。水を欲して根を地中深く伸ばすことで、しっかりした茎のカーネーションが育つのです。



3 茎をピンチする (摘芯)

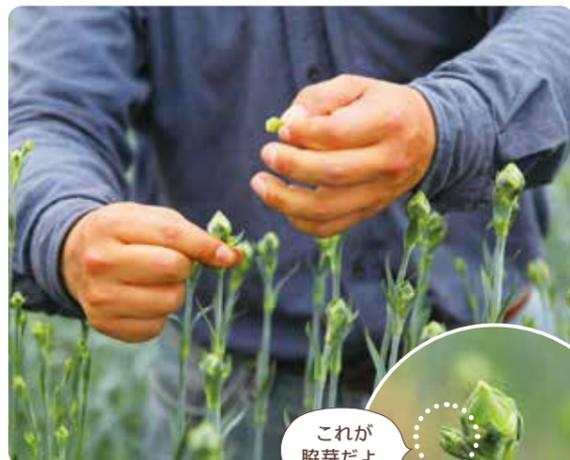
ある程度伸びてきたところで、下から6節目を目安に中心の茎を折ります。これを「摘芯」といいます。摘芯すると節から新しい芽が吹いてくるので、芽を6本程度残しそれ以外の芽は取ってしまいます。



4 芽整理

それぞれの茎が生長してきたら、残した芽の中から生育の早すぎるものや細いものを2本ほど間引き、4本程度を選んで残し、生長させていきます。

カーネーション
1つの株から4本くらい収穫するようにして、立派な花に育てるんだ！



5 芽かき

カーネーションは、手入れをしないと、茎の脇からどんどん芽が出てきます(脇芽)。茎の一番上に1つだけ花をつけさせるため、脇芽は一つひとつ、すべて手で摘んでいきます。特に咲かせる花の脇にある芽はそのままにしておくと花が曲ってしまうため、慎重に取りのぞきます。

これが脇芽だよ。



6 収穫

朝、涼しいうちの5時頃から収穫は始まります。茎の長さは70cmほど。出荷後の使い方に合わせて花の咲き具合を揃えるため、収穫時のつぼみの開き具合(切り前)をどの程度にするのか確認しながら、基準に合わせて手早く丁寧に収穫していきます。

用途に応じて、花の開き具合を揃えて出荷しているんだね。



7 水揚げ・荷造り

収穫した花は、花持ちをよくするために薬剤を入れた水に浸けて水分を吸い上げさせる「水揚げ」を行います。カーネーションの種類によって水揚げの時間を変えます。水揚げ後、長さを切り揃えて箱詰めしていきます。



8 検査・出荷

箱詰めされたカーネーションは選花場に集められ、専任の検査員が検品します。「切り前」「咲き揃い方」「虫の有無」などの項目で格付けし、低温で管理され、全国に出荷されていきます。

きれいなカーネーションが全国に送られていくよ。

